

(財)岐阜県国際交流センター 国際交流情報誌

世界はひとつ

日本語版

2012

冬

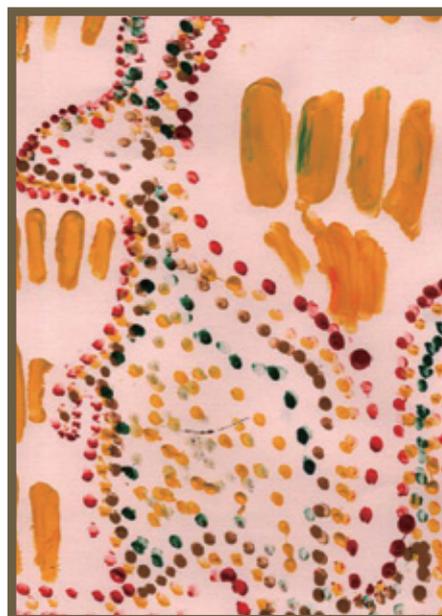
No. 121



中濃特別支援学校 中学部
2年1組 栗木 淳平さん



中濃特別支援学校 中学部
2年2組 岡部 聡太さん



中濃特別支援学校 中学部
2年3組 佐藤 美玖さん

発行 / (財)岐阜県国際交流センター

〒500-8875

岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2F

TEL 058-214-7700 FAX 058-263-8067 トリオフォン 058-263-8066

E-mail gic@gic.or.jp URL www.gic.or.jp

センターの事業報告

外国人コミュニティリーダー等育成事業報告会

当センターでは外国人住民等を対象に「岐阜県外国人コミュニティリーダー等育成事業」を実施してきました。今年度は、岐阜県で活躍する外国人コミュニティの代表の皆さんに、コミュニティの活動報告をしていただきました。今回の報告会は、外国人コミュニティの存在を地域のみなさんに知っていただくとともに、これから何かしたい、活動をさらに発展させたいと願っている外国人住民の方々が、活動のヒントを得る良い機会になったと思います。

また、昨年に引き続き、外国人コミュニティの希望者に対し、コンサルティングを実施。現在抱えている課題を明確にし、課題解決のためのアドバイスを行いました。

日時：平成23年11月23日（水）

場所：岐阜県県民ふれあい福寿会館 403会議室

参加者：23名

1. 岐阜県外国人コミュニティリーダー等育成研修事業報告

外国人コミュニティリーダーのもつチカラ、
外国人コミュニティの必要性とこれからの地域づくりとは。
一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎氏

2. 事例紹介

地域課題の解決と外国人コミュニティ～介護現場と外国人ケアワーカー～
グローバル人材サポート浜松 代表理事 中島 イルマ氏

3. 岐阜県外国人コミュニティリーダー活動報告

岐阜県で活動する外国人コミュニティ3団体に、団体ができてからこれまでの活動内容を話してもらいました。

- ◆ NPO 法人ブラジル友の会 渡辺マルセロ氏
- ◆ 美濃加茂華友会 山田 亜光氏
- ◆ OCJ アビトン・フェルナンド氏



医療通訳サポーター研修 2011



医療通訳は、痛みの感覚を日本語で説明できない、症状や治療方法を日本語でされても理解ができないなど、このような理由から病院に行くことをためらう外国人と医者とをつなぐ大切な役割があります。また医療通訳は日常会話とは違い、専門用語の通訳も多く、命にかかわる問題であるため、さまざまな知識が必要となります。

今回センターでは、昨年に引き続き、岐阜大学医学部と岐阜市・(財)岐阜市国際交流協会の協力の下、12月10日（土）、11日（日）に在住外国人で日本語の日常会話ができる方・日本人で対象言語の日常会話ができる方を対象に、医療通訳について学ぶ研修を開催しました。

12月10日（土）参加者69名（ポルトガル語44名、中国語17名、タガログ語8名）

12月11日（日）参加者60名（ポルトガル語38名、中国語16名、タガログ語6名）

○医療通訳の心構え学習コース

岐阜大学医学部教授 高橋優三氏作成のシナリオをもとに、もし患者に医療通訳以外の用事を依頼されたらどう対応するかなど医療通訳現場で起こり得ることを実際のロールプレイを通して、様々な立場から考え意見交換をしました。



○ロールプレイによる実習

実際に10人程度のグループに分かれ、医者役・患者役の言葉をその場で訳す練習をしました。初級コースでは、医療通訳が初めての方が多く、基本的な医療用語覚え、基本的な診察での会話を通訳しました。上級コースでは、医療通訳の知識をより深めるためにインフォームド・コンセントを体験。患者役に治療の方法や意味、効果や危険性をわかりやすく説明し、治療の同意を得るなど専門的な医療用語を訳す練習を中心に行いました。参加者は、普段耳にしない医療用語がたくさんできて、とても勉強になったと話していました。



平成 22 年度先導的多文化共生支援事業

当センターでは、多文化共生社会の形成に資する先導的・モデル的な事業をプロポーザル形式により公募し、委託事業として実施しました。平成 22 年度は 4 件の事業を採択しました。そのうちの 1 団体の市民協働支援機構の活動を紹介します。

「コミュニティサポートプロジェクト」 市民協働支援機構

大垣市の日本人コミュニティと外国人コミュニティの融合は、地域性から考え、まず日系ブラジル人との交流から進めて行くことがベストと思い、このプロジェクトを始めました。昔ながらの“輪中根性”気質は、西濃地域（大垣市）の特質であるため、“言葉の壁”以前に、他を受入れにくいという問題があります。その結果、ある地域に集まって住むという“住み分け”になってしまっているのが現状です。

NPO 法人である我々が運営するサロン“プラチナプラザ”は、多目的に、多機能に、多くの人に利用して頂くために開放しており、年間延べ 9500 人程の利用者を数えており、イベント時には日系ブラジル人の方々の参加もあり、多目的交流サロンとして周知されています。

この基地から情報を発信し、本プロジェクトの企画である「農業体験」「林業ものづくり体験」「福祉介護研修」を展開してまいりました。



「農業体験」では、揖斐川町経永（はぎなが）をフィールドに 10 回程体験し、11 月 14 日の収穫祭には、日系ブラジル人 2 家族、日本人 2 家族を含め 18 名の参加で、イモ掘、大根・カブ掘などを行いました。次年度に向けては、ドラゴンフルーツやアセロラなどの栽培についても検討しています。

「林業ものづくり体験」は、関ヶ原町今須の特別養護老人ホームをフィールドに、林業の話を聞きながら木工工作に挑戦し交流を深めました。1 回目はこちらが事前に準備したキッドを組立てるだけの簡単な作業でしたが、2 回目は作ってみたいもののスケッチを基に手配した材料で、色々な家具などを製作しました。どの家族も一様に手作り家具を完成させ感動していました。

ブラジル本国においても、近い将来いずれは高齢化が進み、ヘルパーの仕事が必要になってくることを知ってもらうため、また一定の知識を習得して頂くために「福祉介護研修」を実施しましたが、まだまだ先の事と無関心なようでした。現在日本で暮らす日系ブラジル人の年代は 30～50 才までの人が多く、介護の必要性をいまひとつ感じて頂けなかったものと考えています。この研修も今すぐには受入れられなくても地道に進めていく事が大切だと感じています。



(財)岐阜県国際交流センター奨学生の寄稿

当センターでは外国人留学生在が岐阜県について理解を深め、また岐阜県と諸外国の友好交流を図るため、岐阜県内の大学等で学び、経済的に厳しい環境にある外国人留学生の中から奨学生を選考し、奨学金を支給する事業を実施しています。今年は11大学から11人の私費留学生在が推薦され、選考委員会の審議の結果5人の奨学生が決定しました。その中からひとりの奨学生のレポートを紹介します。

東日本大震災について

岐阜経済大学
経営学部 情報メディア学科
呂 蒙 (ロ モウ)

2011年3月11日午後2時46分ごろ、日本で未曾有の大地震が起こりました。日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、破壊的であるだけでなく更に大きな津波も引き起こしました。破壊力は戦争に匹敵し、多数の犠牲者がでました。2008年5月12日の中国四川省大地震と、2010年2月27日のチリ大地震に続いて、東日本大震災は近年世界で起こった最大の震災になりました。

地震という自然災害は残酷に人間の肉体も精神も傷付けました。

「愛に国境はなく、苦難は共に分かち合う」

自然災害に遭った時、歴史問題や摩擦は一時忘れて、お互いに助け合いました。四川地震の時、日本の救援隊のヒーロー達は真っ先に四川省に着き、全力を尽くして被害者を救助しました。また、彼らは発見された遺体に向かってお辞儀をしました。私は中国人として深く感動しました。13億の中国人も私と同じように感動したに違いありません。日本が地震に遭った時、世界中から哀悼と同情の声が集まり、中国もその例外ではありませんでした。

地震発生当時、中国では第11期全国人民代表大会が開催されており、今後5年間の経済計画の内容がどのようなものになるのかについて国内外の注目が集まっていましたが、東日本大地震発生後は中国のメディアも日本の地震に大きな関心を寄せました。

地震を前に、被災者が手を繋いで災難に向き合い、相変わらず非常に落ち着いています。また、食べ物がなく状況の中で整然と列に並んで食べ物や衣類を受け取っていた映像は世界の人々に見せたいと思いました。災難の前でこんなに落ち着き助け合う。これこそ「和」の力ではないでしょうか。

一方中国では、今回の地震と福島原発事故の影響で、塩を大量に買い占める騒動がありました。スーパーの塩は数時間の内にたちまち売り切れました。それは「放射線漏れにより海水が汚染され、塩が汚染される」または「塩には被曝を予防することができる」という噂が中国の中で広がったからです。日本でも同じ様な現象が起こりました。本来、被災者に届けなければならないものを、被災していない私たちが買い占めて、結果的に被災者の方を苦しめる事に繋がり、悲しい思いをしました。買い占める前に私たちも同じ立場だったらどう思うかという事を考えれば、あのような騒動は防げていたかもしれません。

中国側としては、日本を助けるだけでなく、日本の震災への対応を見習わなければなりません。自然災害の前で、日本人の落ち着いた助け合いは、中国だけではなく世界の人々も「和」を勉強すべきではないでしょうか。

人は人に支えられて生きているものです。人を助けることが多くの人にとって、心の支えになれることを信じています。人は一人では生きていくことができないからこそ、協力し合い、お互いに解り合える。それが人間というものだと思います。災難の前で人間は無力であり、いつ死ぬかもわかりません。今の生活を大事にし、後悔がないように生きていきたいと思います。

また、中国でこんなことわざがあります、「風雨の後は虹が出る」。日本、がんばれ。災難の前で私たちが家族です。

最後に、日中が友好と平和的に共存し、一日も早く復興できるように、お祈りします。

国際交流員を派遣します

当センターでは、市町村・学校等の行うイベント等に国際交流員を派遣して、国際交流・国際理解活動を支援しています。今回は、岐南町国際交流協会で開催された料理教室について紹介します。

「オーストラリア料理教室」 国際交流員 サリー・ウォールズ

開催日：平成 23 年 10 月 13 日（木） 参加者：女性 10 名 男性 2 名

今回、岐南町国際交流協会の依頼を受け、「海外料理教室」の講師をしました。料理教室の講師をすることは、初めてでした。依頼を受けた時、考えたことは、「オーストラリアの料理は、何だろう？」ということです。

オーストラリアは、もともとオーストラリアに住んでいた人だけでなく、さまざまな国から移り住んできた人々が暮らしています。そのため、自分の祖先から受け継いだ料理だけではなく、日頃からアジア諸国や、メキシコや、ヨーロッパ諸国の料理を食べています。しかし、実際にその国で地元料理を食べてみると、面白いことにオーストラリアで食べる料理とは何かが違うと感じます。各国からの移民が食文化を発展させ、「オーストラリアの料理」になっていったのでしょうか。

料理教室では、簡単にできる料理が良いと思い、ヨーロッパの影響を受けている料理にしました。前菜はイタリアの「ブルスケッタ」です。バゲットやフランスパンをスライスした上に、みじん切りにしたニンニク、オリーブオイル、トマトとバジルをのせて焼きます。メインの料理は、フランスの「キッシュ」です。キッシュは、今回の料理教室で一番好評でした。デザートは、ドイツの「リンゴ詰め」です。リンゴの芯を取って、その芯を取った部分に、干しぶどう、黒糖、溶けているバター、潰したナッツを混ぜたものを入れます。

岐南町の 10 人の女性の方と 2 人の男性の方と一緒に料理を作ったり、食事したり、おしゃべりをしたりし、毎日の仕事が料理教室であればと思うほど楽しい時間でした。参加者のみなさん、御協力ありがとうございました。



★岐南町国際交流協会からの声★
とても良い雰囲気です、手際よく行うことができました。参加者からも、普段食べることができないものを食べることができてよかったという声があがりました。

当センターでは、市町村や学校、国際交流団体などが実施する国際交流事業に、国際交流員を派遣し、地域の国際交流の推進に協力しています。現在、3名の国際交流員（出身地：オーストラリア・中国・ブラジル）が勤務しています。国際交流員の派遣を希望される場合は、当センター（TEL 058-214-7700）にお問い合わせください。

新しい外国人相談員の紹介

皆さんこんにちは！バルント ジェレリー ジョイと申します。フィリピンのミンダナオ島、ダバオ市から来ました。そのため、母語はタガログ語ではなく、スペイン語とよく似たビサヤ語を話します。タガログ語と英語はフィリピンの共通語であるため話せます。

日本に初めて来たのは小学校の時でした。6年間日本の学校に通い、高校と大学はフィリピンで卒業しました。大学では国際学科、日本語専攻をうけて去年の3月に卒業しました。大学時代からいろいろな日本語スピーチコンテストに出場したり、日本ラジオのDJをやったり、フィリピン日系人会で研修生として書類の翻訳や日本人の通訳をしたり、また、ダバオ市の日本領事館で日本人のダバオ市在留調査をしたり、日比関係の経験をたくさんしました。これらの経験を活かす仕事がしたいと思い日本（岐阜県）に再び戻りました。社会人として仕事をするのは初めてです。まだまだ、学ばなければいけないこと、精神的にまだ子供ですが、ここでの仕事を通して、フィリピン人だけではなく英語を話す外国人の力になりたいです。力になるだけではなく、国際的なことをたくさん学びながら成長したいです。お会いしましたら、気軽に声をかけてください。宜しくお願いします。



当センターでは、岐阜県内に在住している在住外国人の皆様の多様なニーズに応えるため、相談員を設置しています。日々の生活で困ったことなどがありましたらご相談ください。

言語	曜日	時間
ポルトガル語	月～金曜日、日曜日	9時～16時
中国語	月～金曜日	
英語	月～金曜日	
タガログ語	火曜日、木曜日	

※ 用務の都合上、相談員が不在の場合がありますので、ご了承ください。

中国の文化紹介

世界一広い範囲で賑わわせる「春節」

国際交流員 顔志雄

皆さん、お正月は楽しく過ごしましたか。忙しい中、おせち料理を食べたりして、一年頑張った自分を含め家族みんなで過ごす幸せなひとときではなかったでしょうか。

お正月を祝うということは、日本特有のものではありません。世界で人口の一番多い国である中国の人々も年末になると指を折りながらお正月を待っています。中国では日本と違い正月の日の数え方を旧暦に従っています。「春節（しゅんせつ）」とよばれる旧暦の正月は、中国でもっとも大事にされてきた祭日で、アジアの他の国でも非常に重要視されています。

中国では春節が近づくと、「新年」「新春」と「過年」といった言葉がよく用いられます。「過年」は文字通り、「年を過ごす」、お正月を過ごし、新年を迎えるという意味ですが、「年（ニエン）」は、昔には別の意味があったそうです。

伝説によると、「年」は一種の凶悪な動物で、鋭い角を持ちます。農作物を荒らすこの害獣がやっけないよう、種まき前の豊作を祈念する際には、常に「年」を追い払うことが人々の頭の中にもありました。「年」は赤い色や火、爆発の音を怖がるので、祭祀には赤い色が用いられました。今日の中国でも、「過年」には赤い提灯を揚げ、いっせいに爆竹を鳴らすのは、ほぼそのまま古代の祭事が受け継がれているからです。

西暦が世界中で用いられている今日、中国を中心に使われている旧暦の春節は、西暦の1月22日頃から2月19日頃までの間を移動し、毎年違うため、不便を感じるかもしれません。（2012年の春節は西暦の2012年1月23日にあたる。）しかし、100年前の西暦を取り入れる以前の中国では、日常の農作業とあまり密接な関係を持たない西暦ほど使いにくいものはないと人々は感じたかもしれません。中国の農村部では今でも旧暦が使われています。国民経済の中心は工業に移っていますが、民族の奥深くまでしみこんだ春節は中国ではそう簡単に捨てられるものではありません。中国大陸だけでなく、台湾・香港・マカオ地区でも、それに、漢民族だけでなく、壮族、満州族、侗族など十数以上の少数民族も春節を祝います。朝鮮半島、モンゴル、シンガポールなど、また世界中のチャイナタウンなど華人の多い地域でも春節の習俗が大切に守られています。まさに世界一広い範囲で賑わわせる「春節」なのです。

春節は、伝説上の皇帝や庶民たちが春先に「年」と向かいあっていた祭祀から、現在では、「春聯」（おめでたい言葉が書いてある紙）・「福字」を貼り、家族そろって家やレストランで楽しんだり、海外に出かけて見識を広げるなどその過ごし方はさまざまに変化しました。しかし、春節自体は変わったわけではありません。多様な世界文化の中で、アイデンティティーを保ちながら異文化も取り入れていく中国の特徴が今日の春節からも垣間見ることができると思います。



【春聯】



【福字】

「福」の字を逆さに貼る。「倒」と「到」の発音が同じことから、「倒福（dào fú）福が逆さ」＝「到福（dào fú）福が来る」の意味を表す。



【春節のときの公園】

お知らせ

●外国人住民に関する住民基本台帳制度の電話窓口

外国人住民に関する住民基本台帳制度の電話相談窓口が開設されました。日本語のほか、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語での対応を可能としています。平成24年3月30日まで利用できます。

〈電話番号〉 総務省 外国人住民基本台帳電話相談窓口（外国人住基コールセンター）

0570-066-630（ナビダイヤル）

048-610-8779（IP電話、PHSからの通話の場合）

〈受付時間〉 8：30～17：30（土日祝を除く）

制度移行については、下記の総務省のサイトをご覧ください。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/pdf/jpn_page.pdf

センターからのお知らせ

●ポルトガル語による「こころの相談」

ご自身やご家族のこころの健康について悩んでいませんか？ブラジル人専門カウンセラーが無料で相談に応じます。秘密は厳守します。

相談日：平成24年2月12日（日）、3月4日（日） 10：00～17：00

相談時間：お一人につき50分程度

相談場所：（財）岐阜県国際交流センター（岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2階）

対象：県内在住のブラジル人

※予約制ですので、事前にお電話でお申し込みください。

申し込み・お問い合わせ先 058-214-7700 詳細は当センターのHPでも確認できます。

国際ひろば

●「英語を話したい人、集まれ！」

普段、なかなか使う機会のない英語を使ってゲームや会話で楽しく交流するイベントです。

是非ご参加ください！

日時：平成24年2月12日（日）14時～16時

場所：ハートフルスクエアG 大研修室、中研修室

クラス：①親子（2人1組：小学1～3年生のお子さんとその保護者の方）

②ゲームと簡単な会話（小学4年生以上で、簡単な英語を使ったゲームを楽しみたい方）

③会話（英会話を楽しみたい方）

定員：①16組、②20名、③30名 参加費 200円（当日徴収）

申込み：イベント名・希望クラス・住所・氏名・年齢（①の場合、氏名・年齢は親子共）・電話番号を往復はがき、FAXま

たはE-mailで、2月2日（木）までに（財）岐阜

市国際交流協会（〒500-8720 岐阜市神田町1-11

市国際課内・TEL/FAX：058-263-1741・E-mail：

gifucity-iea@nifty.com）へ。

お電話でのお申込みはご遠慮ください。申込者多

数の場合は抽選。

情報・寄稿を募集しています！

「世界はひとつ」に掲載する情報・寄稿を募集しています。掲載ご希望の方はセンターまでご連絡ください。なお、誌面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

●平成24年度内閣府青年国際交流事業に参加しませんか

内閣府では、将来を担う国際感覚豊かな青年を育成するため、様々な国際交流事業を実施しています。

平成24年度の「国際青年育成交流」「日本・中国青年親善交流」「日本・韓国青年親善交流」「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」「世界青年の船」「東南アジア青年の船」事業の参加者を募集します。

詳細については、1月末に内閣府HP（<http://www.cao.go.jp/koryu/index.html>）に掲載する予定です。

問い合わせ先：内閣府青年国際交流担当（TEL 03-3581-1181）、岐阜県男女参画青少年課（TEL 058-272-8238）

第23回ハローギフ・ハローワールド 2011

12月3日(土)開催



皆様こんにちは、岐阜県国際交流団体協議会事務局の市来恭子です。今年で23回目のハローギフ・ハローワールド2011を、岐阜県国際交流センター及び本協議会の事務局が柳ヶ瀬に移転したのを記念して岐阜市日ノ出町のシネックスホールで開催致しました。

県下の28の国際交流団体がブースを出展し、外国人らが、民族衣装を着て活動紹介や民芸品販売、特産物の試飲食等を行いました。サリーやチマチョゴリの民族衣装を試着し、カレンダーを作成するコーナーも盛況でした。パフォーマンスプログラムでは、フラメンコ、ベリーダンス、ペルー・インドネシア・フィリピン・スコティッシュダンスが行われました。

今年、世界遺産マチュピチュ発見100周年を記念して、ペルーマチュピチュ村初代村長の孫、野内シーザー良郎氏の講演会が行われ、さらにラテンフォルクローレの”コンドルは飛んでいく”などのライブでは会場は一段と盛り上がりました。



—岐阜県国際交流団体協議会に加入しませんか—

国際交流活動をされている団体の皆様、本協議会の活動に参加しませんか。お問い合わせは事務局まで。

岐阜県国際交流団体協議会 Email:giagia200711@yahoo.co.jp 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中目ビル2階 TEL:058-214-7703

JICA コーナー

皆様、こんにちは。岐阜県 JICA デスク栗原です。年末年始はいかがお過ごしでしたか？
2011年は大変お世話になりました。2012年もよろしくお願い致します。



イベントの報告



2011年12月3日(土)「ハローギフ・ハローワールド2011」に岐阜県 JICA デスクとしてブース出店をしました。今回は隊員の現地での活動紹介をし、ジャマイカで活躍された安田なぎ子 OG の活動のクリスマスカード作りをしました。その他、カンボジア・ニジェールの現地語も紹介し、会場には2,000人の方が来場し、JICA ブースにも多くの皆さんがクリスマスカード作りを楽しんでいました。ご来場ありがとうございます。



「みんなで折り紙」



「真剣に書いてます！」

JICA お知らせ

あなたも JICA ボランティアに
挑戦しませんか？

募集期間：平成24年4月1日～5月14日

対象：20～39歳（青年海外協力隊）

40～69歳（シニア海外ボランティア）

詳細は HP (www.jica.go.jp) まで！！



～海外ボランティア、国際理解講座など、お気軽にお問合せ下さい～

岐阜県 JICA デスク 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中目ビル2階 岐阜県国際交流センター内
岐阜県国際協力推進員 栗原 樹里 (くりはら じゅり)

TEL:058-263-8069 E-mail:jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp JICAホームページ www.jica.go.jp